

2. 滝川市の都市づくりにおける課題

2-1. 人口減少・高齢社会に対応した都市づくりに関する課題

本市では人口減少、超高齢社会への移行が進み、今後もさらなる進行が予測され、特に、中心市街地の空洞化（図 2.15）、江部乙、東滝川における高齢化の進行（図 2.16）が深刻化することが想定されます。また、人口が減少する中、市街地拡大が進み（図 2.17）、社会基盤が十分に整備されていない地域で新たな道路整備や除排雪等が必要となるなど、都市の維持管理におけるコスト増加につながる考えられます。その一方で、生産人口（15～64 歳）の減少により、市財政の歳入が減少し、都市財政の縮減が進むことが予測されます（図 2.18）。

そのため、今後は人口減少、高齢化が進む中で暮らしやすい都市づくりを進める必要があり、あわせて、市街地拡大の抑制、都市にかかるコスト縮減が重要な課題となります。

以上のことから、今後の具体的な課題は次のように整理できます。

【具体的課題】

- ①人口減少に対応した生活利便施設等の再配置
- ②超高齢社会に対応した暮らしやすい市街地形成
- ③農業地域への市街地拡大の抑制
- ④都市の維持管理コストの縮減等、持続可能な都市経営の実現

①人口減少

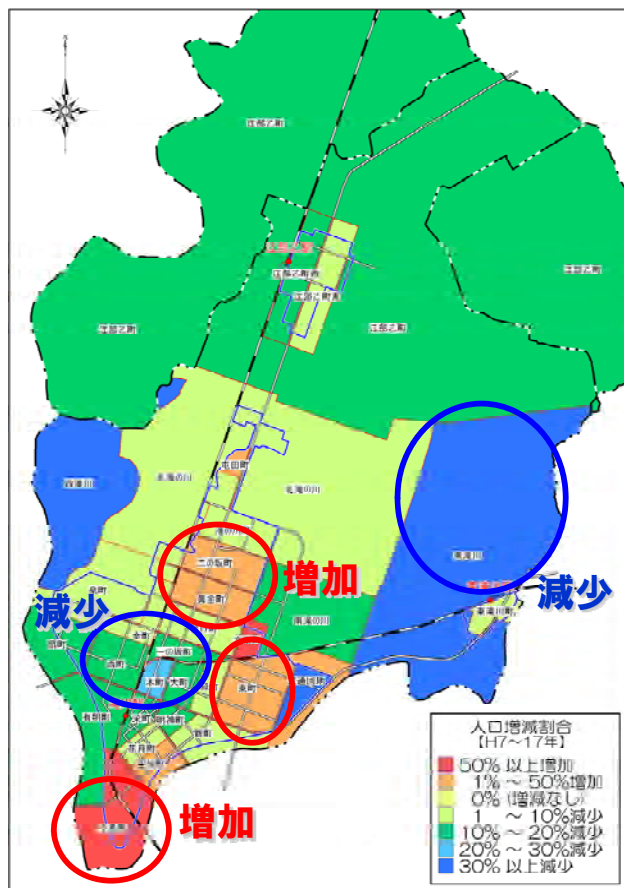


図 2.15 人口減少 / 資料：各年国勢調査

②超高齢社会

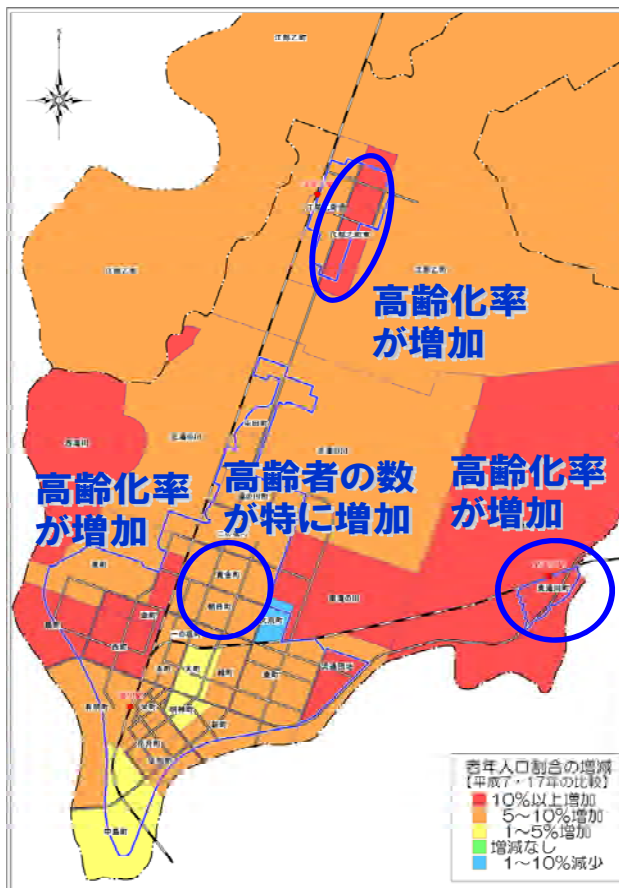


図 2.16 高齢化 / 資料：各年国勢調査

③農業地域への市街地の拡大



図 2.17 市街地の拡大 / 資料：H18 年都市計画基礎調査データ

④都市財政の縮減

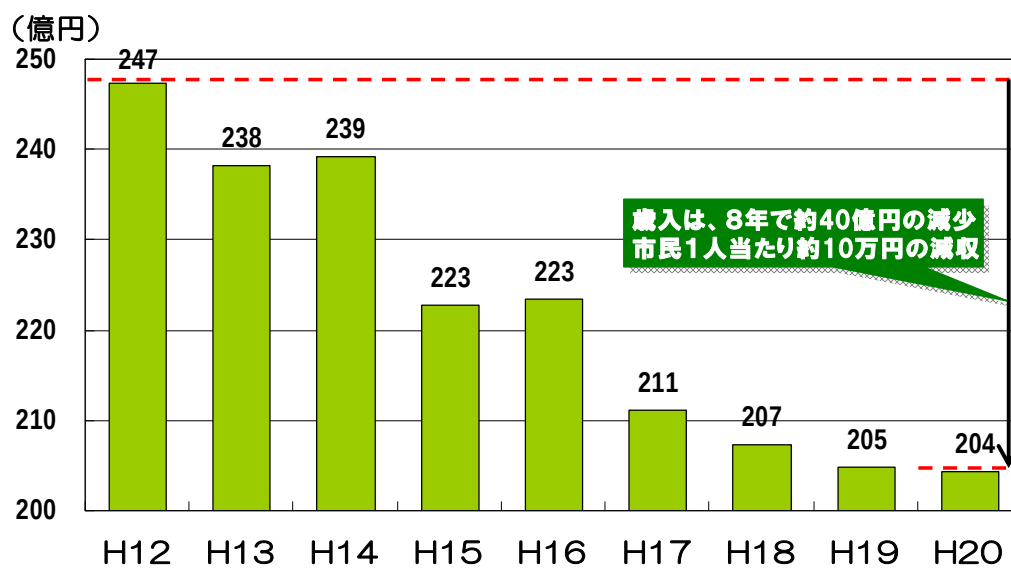


図 2.18 歳入の推移 / 資料：滝川市決算書

※ 白地地域：都市計画区域のうち、用途地域が指定されていない区域

2-2. 地方都市の暮らしに適した土地利用に関する課題

本市では自動車保有台数が増加する一方で、公共交通利用者数が減少を続けています(図 2.19)。また、市街地全体に未利用地が分布し(図 2.21)、特に、住居系・工業系の用途地域内における未利用地は 23%程度となっています(図 2.20)。その一方で、田園景観を守るべき地区に住宅などの立地が進んでおり(P15 図 2.17)、優良な田園環境や自然景観に影響を及ぼすことが考えられます。

そのため、今後は、生活利便性の向上と安全・安心な都市づくりを進める必要があり、高齢社会に対応した多様な移動手段を利活用できる交通環境の充実が必要となります。また、未利用地の有効活用や田園景観・自然環境の保全が重要な課題となります。

以上のことから、今後の具体的な課題は次のように整理できます。

【具体的課題】

- ①生活利便性と安全・安心な暮らしの両立
- ②自家用車中心の市民生活の実情への対応
- ③未利用地の有効活用
- ④都市的土地利用の抑制による田園景観・自然環境の保全

① 自家用車中心の生活と公共交通利用者の減少

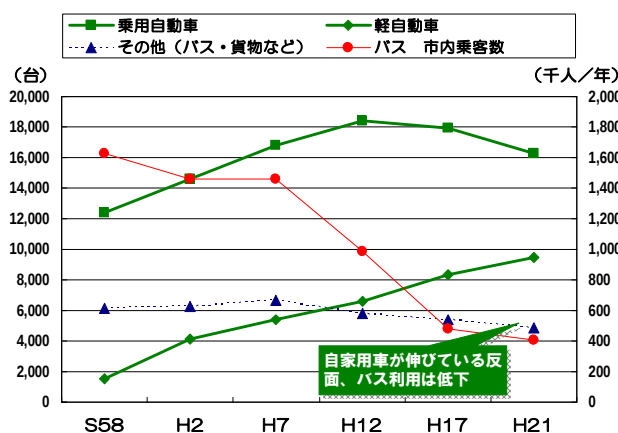


図 2.19 自動車保有台数と公共交通利用者数
／資料：滝川市統計書

② 未利用地*の住居・商業・工業別割合

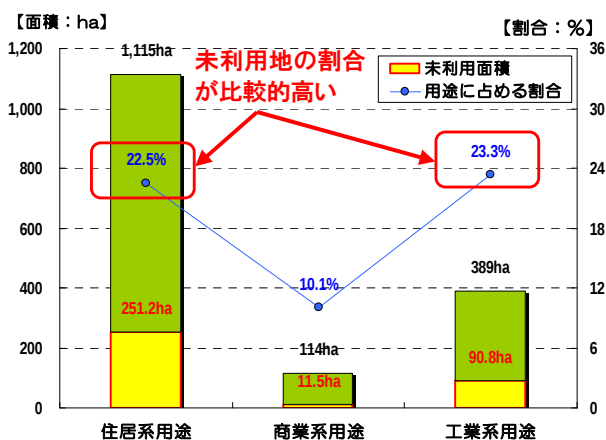


図 2.20 住居・商業・工業別の未利用地の規模と割合
／資料：H18年都市計画基礎調査データ

*未利用地：空き地(宅地・農地・原野)の他、資材置き場、青空駐車場、屋外運動場、屋外展示場が含まれる

③未利用地※の分布



図 2.21 未利用地の分布／資料：H18 年都市計画基礎調査データ

※未利用地：空き地(宅地、農地・原野)の他、資材置き場、青空駐車場、屋外運動場、屋外展示場が含まれる